

〔日本プラセンタ医学会 趣旨〕

プラセンタ療法は、全身の細胞に効果があります。そのことに気付いた先人の研究を引き継ぐ形で、わが国において50年以上にわたり飛躍的に発展を遂げてきました。

本医学会は、2007年の第1回大会から、プラセンタを積極的に使い、多くの患者さんを治療している先生方の経験を集約し、かつ、さらなる普及と発展に努めてきました。また毎年、基礎研究分野での新しい報告がいくつもあり、プラセンタの価値がさらに高まっていることを実感しております。

今後のプラセンタ療法の在り方は、多くの病気の源である“老化を治す”にあると考えています。ここ数十年、抗加齢治療の発展はめざましく、近年では“老化は病”となり、“老化を治す”の意識と共に、その原因を追究する基礎研究が進み、治療の確立に光が見え始めてきました。

私たちにできる事。それは、プラセンタ療法をアンカードラッグの一つとし、この療法に正しい理解を持つ医療者が尽力し協力し合ってより正確なデータを蓄積し、よりの確で最適なプラセンタの使い方を明確にしていくことです。

そして、この活動と情報を日本プラセンタ医学会の会員と共有し、多くの患者さんに届ける事により、“より豊かな人生”を提供できると考えます。

一般財団法人 日本プラセンタ医学会
理事長 中村 光伸

第35回日本プラセンタ医学会大会開催にあたって

多様化する医療ニーズに応えるプラセンタの可能性

大会実行委員長 稗田 圭一郎
医) 五常会 鶴巻メンタルクリニック 院長

本学会は、コロナによる中断はあったものの、発足より35回を数えるようになりました。この会の特徴は、専門の異なる様々な方が参加していることですが、それぞれが専門分野を持ちながらプラセンタと言う共通項でつながっています。会の雰囲気も堅苦しくなくアットホームで和やかなのは、なぜか？それは臨床を大切にされているからだと思います。疾患としてだけではなく患者さんを1人の人間とみて、その生活の質の向上を考えたときにプラセンタに行き着いたのではないかと思います。私自身、この学会にいつも楽しんで参加しています。臨床を行う上で患者さんにフィードバックできるネタがたくさんあるからです。今回も様々な科の先生方からの症例報告があります。明日からの臨床の糧になる会になれば幸いです。



今回の特別講演は、株式会社ヘルシーパス代表取締役田村忠司さんに「医療機関の幸せなサプリメント活用法」、招待公演は、女子医大学附属足立医療センター心療・精神科教授の大坪天平先生に「女性特有のうつにどう対応するか-PMS、PMDD、PME、更年期障害を含む-」をお願いしています。どちらもこれからの医療機関の経営や日々の臨床において有益なお話になると思います。また今回は、動画でのご発表となりますが、ロシアから国立モスクワ医科歯科大学のリオニード・ポリソヴィチ・ラゼブニク教授の「Possibilities of iron modulation by human placental hydrolysate」のご発表があります。ロシアはプラセンタ療法が盛んで、前回私が大会実行委員長を務めさせていただいた第15回大会に初めてロシアから発表がありましたので、これも何かのご縁とっております。

何事も企画は、主催者が楽しくなければ参加者は楽しくないと思っております。今回も私自身が楽しめる企画を組みました。私はプラセンタ療法を始めて27年になりますが、患者さんにも必ず「プラセンタを楽しんでください」と話しています。今大会に参加していただく皆様に1日を通して楽しんでいただければと思っております。

1人でも多くのご参加をお待ちしています。

女性特有のうつにどう対応するか？ －PMS, PMDD, PME, 更年期障害を含む－

東京女子医科大学附属足立医療センター 心療・精神科 教授
大坪 天平 (オオツボ テンペイ)

座長：上田 容子 (医) 美帆会 神楽坂ストレスクリニック・院長

略歴

1988年3月 浜松医科大学医学部卒業
1988年5月 昭和大学医学部精神医学教室入局
1998年3月 同教室専任講師
2004年1月 同教室准教授
2004年4月 昭和大学附属烏山病院准教授
2008年4月 JCHO東京新宿メディカルセンター精神科主任部長
2017年4月 東京女子医科大学東医療センター精神科臨床教授
2021年11月 東京女子医科大学東医療センター精神科教授
2022年1月 東京女子医科大学附属足立医療センター心療・精神科教授



学会役員

日本不安障害学会 (理事), 日本女性心身医学会 (理事), 日本臨床精神神経薬理学会 (評議員), 日本神経精神薬理学会 (評議員), 日本うつ病学会 (評議員), 日本精神科診断学会 (評議員), 日本心身医学会 (代議員), 日本ポジティブサイコロジー学会 (評議員), 日本精神神経学会, 等

うつ病は女性の方が男性より、時点有病率、生涯有病率、いずれも2倍程度と多い。その理由として、大きく二つのことがいわれている。一つ目は、女性には、男性にはない月経、妊娠、出産、産褥、更年期など大きな性ホルモンの変動がみられることである。二つ目は、後天的に、女性の方がジェンダーギャップなど心理社会的要因の影響を受けやすいことがあげられる。

女性特有のうつには、月経前症候群 (PMS)、月経前不快気分障害 (PMDD)、妊娠期のうつ病、マタニティー・ブルーズ、産後うつ病、更年期のうつ病、premenstrual exacerbation (PME) などがあげられる。

例えば、PMSやPMDDは黄体期のエストロゲンが低下する時期に、産後うつ病は出産と同時に急激にエストロゲンが低下するのに引き続いて起こるし、更年期のうつ病も、エストロゲンの枯渇時期と一致している。もちろん、エストロゲンだけで説明できるわけではなく、プロゲステロンやその代謝産物、および、ホルモン受容体の感受性なども関係し、単純にホルモンが多い少ないという問題ではない。

本講演では、多少プラセンタとの関連を交えて概説する。

医療機関の幸せなサプリメント活用法

(株) ヘルシーパス 代表取締役社長
田村 忠司 (タムラ タダシ)

座長：稗田 圭一郎 (医) 五常会 鶴巻メンタルクリニック 院長

略歴

- 1988年 東京大学工学部産業機械工学科卒業
同年、株式会社リクルートに入社。通信事業を中心に経営戦略、営業、新規事業立案、マーケティング戦略立案に従事。
- 1998年 日研フード株式会社に入社。取締役経営企画室長、サプリメントの製造子会社の代表取締役社長として活動。
- 2006年 「医療従事者が自信を持って使えるサプリメントを提供して欲しい」との、医師、薬剤師からの要請に応じて、医療機関専用サプリメントの専門メーカー、株式会社ヘルシーパスを設立。代表取締役社長に就任。



著書

- サプリメントの正体 (東洋経済新報社・知的生き方文庫)
これを食べればサプリはいらない (東洋経済新報社)
健康長寿の栄養学ハンドブック (日本アンチエイジング歯科学会編：草隆社)
自由診療・サプリメント導入実践マニュアル (共著：日本法令)
【新版】サプリメントの正体 (東洋経済新報社)

株式会社ヘルシーパス ウェブサイト <https://www.healthy-pass.co.jp/>

概ね一兆円とされるサプリメントや健康食品の市場規模。多くの方がそれぞれの目的でサプリメントを購入しています。

とはいえ、診療にサプリメントが活用されると聞くと、不思議に感じる方も多いと思います。実は現代の日本には栄養状態が悪いことが原因で不調に悩んでいる人が多く、そうした人にとっては栄養状態の改善が最も効果的に健康を取り戻すアプローチです。日本人の栄養状態が良くないことは、厚生労働省の「日本人の食事摂取基準」と「国民健康・栄養調査」を見ると明らかです。食生活の改善は個人の努力ではなかなか難しく、「良い食事を摂ってくださいね」というアドバイスを実行できる患者さんは極めて少数です。

サプリメントはカプセルや錠剤の形に必要な栄養素をまとめたものですから、食事に併せて飲むことで効率的に栄養状態を改善でき、医療機関にとっては便利な診療のツールになるのです。

今回の講演では、患者さんとの信頼関係を向上しながら、医療機関が上手にサプリメントを上手に活用するためのポイントをお伝えします。

併せて、玉石混交のサプリメント市場から信頼して使えるサプリメントを上手に見分けるための目利きの方法にも触れたいと思います。

ヒト胎盤加水分解物による鉄分配性貧血の改善

モスクワ国立医科歯科大学医学部総合診療科 教授

Leonid Borisovich Lazebnik (レオニード・ポリソヴィッチ・ラゼブニク)

座長：長瀬 眞彦 吉祥寺中医クリニック 院長
順天堂大学医学部 医学教育研究室

略歴

1965年 I.M.セチェノフ第一モスクワ国立医科大学卒業
1970年～1994年 母校に勤務
1993年～2010年 モスクワ医療局主任医師
1994年～2001年 ロシア卒後教育医学アカデミーの老年学・老年医学科を率いる
1995年～2001年 ロシア連邦保健省老年医学部長
2001年～2012年 ロシア中央消化器病科学研究所所長



受賞歴

1999年 モスクワ政府賞
2000年 ミャスニコフ・ロシア医学アカデミー賞受賞

二価または三価の外因性鉄は、十二指腸と小腸上部で吸収され、アポフェリンとフェリチンに変換された後、トランスフェリンと結合し、血流によって骨髄と網内系に送られる。血液中の鉄の量は、網内系マクロファージ、肝臓のヘプシジン・マクロファージ・フェロポルチン系、腎臓のエリスロポエチンによって調節されている。

骨髄では、鉄がポルフィリン環と結合してプロトポルフィリン-ヘムが形成され、これがタンパク質分子と結合してヘモグロビンを形成する。ヘモグロビンは酸素を組織に運搬するためのトランスポートタンパク質である。

体内に蓄えられた鉄はSS-フェリチンタンパク質の形で貯蔵され、赤血球造血のための鉄受容体であると同時に、妊娠中の子宮を通じて胎盤から酸素を供給する役割を担っている。SS-フェリチンは、活性型アポフェリチンおよび不活性（予備）型のHL-フェリチンと結合している。

ストレスの多い状況では、SS-フェリチンは還元型で毒性のあるSH-フェリチンに変化する。

鉄量を調節する因子はヘプシジンというタンパク質で、ヘファエスチンとフェロポルチンの合成を阻害し、鉄の吸収を制御する。そのヘプシジンレベル低下すると鉄欠乏性貧血が発症し、逆に増加すると肝臓組織を含むヘプシジン関連炎症や鉄過剰症候群が生じる。遊離した鉄イオンは、コラーゲン産生および線維化の増加を引き起こす。すなわち星状細胞の活性化と低比重リポタンパク質の産生亢進を伴い、フェロトシスと呼ばれる現象をもたらす。

この患者は、慢性疾患に伴う貧血（鉄の再分布による）を発症しており、血清鉄およびトランスフェリンの値は通常低下している一方で、フェリチン値は正常または上昇している。

鉄の恒常性を調節する19種類のペプチドが同定されているヒト胎盤抽出物の使用により、肝臓への鉄の沈着が減少し、胆汁中への鉄排泄が増加するとともに、活性化マクロファージの蓄積、炎症、酸化ストレスが減少する。

規格化されたヒト胎盤エキスは、肺、腎臓、心臓、脳、筋肉、その他の臓器において保護作用を示し、悪液質モデルにおける心臓組織の肥大および線維化を抑制し、神経保護を促進し、臓器をヘモシデロシスから保護し、サルコペニアを軽減する。

COVID-19急性感染症患者では、治療中に総フェリチンの有意な減少がみられ（男性で-386 mcg/l、女性で-80 mcg/l）、これは急性炎症および細胞溶解（赤血球、肝細胞）の減少に対応していた。

産婦人科クリニックにおけるプラセンタ療法の実際

医) 寛繫会 五十嵐レディースクリニック 理事長
五十嵐 豪 (イガラシ スグル)

座長：北西 剛 きたにし耳鼻咽喉科・院長

略歴

2002年 聖マリアンナ医科大学卒業 聖マリアンナ医科大学産婦人科学入局
2013年 聖マリアンナ医科大学 産婦人科学 講師
聖マリアンナ医科大学医学部附属大学病院 産科副部長
2015年 聖マリアンナ医科大学医学部附属大学病院 婦人科副部長
2020年 五十嵐レディースクリニック 院長
2022年 一般財団法人 Nightingale 代表理事
2023年 聖マリアンナ医科大学 産婦人科学臨床教授
川崎市産科婦人科医会 理事
川崎市医師会 理事
日本プラセンタ医学会 理事
2024年 医療法人 寛繫会 五十嵐レディースクリニック 理事長



資格

医学博士、母体保護法指定医、日本産科婦人科学会専門医、女性ヘルスケア専門医

所属学会

日本産科婦人科学会、日本抗加齢学会、日本女性栄養代謝学会、日本女性医学会、日本周産期・新生児医学会、日本東洋医学会、点滴療法研究会、日本プラセンタ学会、月経血幹細胞臨床研究会

2012年に聖マリアンナ医科大学病院産婦人科において初めてヒト胎盤由来成分含有製剤（プラセンタ注射）を更年期治療の選択肢の一つとして導入して以来10年が経過しました。2020年から大学病院の近くでクリニックを開院し、クリニックでの診療の傍ら定期的に大学での外来診療も継続しております。プラセンタ注射を希望して当院に来院される患者さんの数は、1カ月でのべ230人ほどです。この中には更年期障害だけではなく、ほかの症状にも効果を認めていることから通院されている患者や、男性の患者もいらっしゃいます。一方で、注射により症状が改善しない、あるいは副作用とも思える症状を訴える方もいらっしゃいます。当院通院中の患者の症例報告をさせていただきます。

プラセンタ注射（ラエンネック® 3A）を 連日実施し脂肪肝が改善した症例

医) 川口内科 川口メディカルクリニック・院長
川口 光彦 (カワグチ ミツヒコ)

座長：北西 剛 きたにし耳鼻咽喉科・院長

略歴

昭和57年3月 兵庫医科大学卒業
昭和57年4月 岡山大学第一内科入局
昭和57年5月 医師国家試験合格
昭和57年10月 福山市市民病院 内科に赴任
昭和60年4月 広島通信病院 内科に赴任
昭和61年4月 岡山大学第一内科に帰局
昭和62年4月から 小出グループにて肝細胞培養を中心に基礎研究開始
平成元年10月 津山中央病院 内科に赴任
平成4年10月 博士号取得
平成7年10月 津山中央病院 消化器内科肝臓部門部長に就任
平成8年10月 岡山済生会総合病院 内科に赴任
平成8年11月 内科医長就任
平成14年4月 内科主任医長就任
平成17年10月 岡山済生会総合病院客員医長、川口内科副院長就任
平成18年8月 医療法人川口内科 院長・理事長に就任



所属学会

日本内科学会 認定医 日本肝臓学会専門医
日本東洋学会 専門医 日本臨床漢方医学会 会員
日本消化器病学会 専門医 日本消化器病学会中国支部 評議員
日本プラセンタ医学会 理事
日本臨床内科医学会 医療保険委員会副委員長 介護保険委員会委員
日本認知症予防学会 会員 抗加齢学会 会員

委嘱

岡山県肝炎対策協議会委員 岡山県肝炎治療患者認定協議会委員
岡山県社会保険診療報酬請求書審査委員会審査委員
岡山市介護認定審査会委員 岡山県医師会保険指導医
岡山県内科医学会 会長 (2024年6月～)

ラエンネックはウイルス肝炎に対して保形収載されている薬剤である。1回1A 日に3回まで投与可能と添付文に記載されている。したがって拡大解釈として、3A/回、日に1回の筋注は可能と考えている。一方、脂肪肝による肝機能異常に対しては保険収載されていない。また文献的にも脂肪肝に関して効果があるという臨床データはない。ただし、一度この学会で浜田内科消化器科クリニックの浜田結城先生がラエンネックの脂肪肝に対する有効性を報告されたことがある。今回この報告も踏まえてラエンネック3A/日を5-6回/週投与し、9か月後に肝機能が正常化し、画像検査にても脂肪肝が改善した症例を経験したので報告する。

地域医療としてのプラセンタ、女性の元気は社会の元気！

今村医院・副院長 女性外来
今村 理子（イマムラ サトコ）

座長：北西 剛 きたにし耳鼻咽喉科・院長

略歴

- 1994年 金沢医科大学卒業
同大学にて内科研修。腎臓内科入局。内科認定医取得。
- 2002年 金沢医科大学女性外来担当医
- 2010年 福島県立医大 性差医療センター女性外来担当医
メンタルケアとして『幸せのレッスン』を開催
- 2011年 東日本大震災で被災し、メンタルや潜在意識に、より興味を持つ。
各種心理学、エネルギーワークを学び、現在も実践中。
- 2021年 震災で10年閉業していた義父のクリニックを夫が内科クリニックとして再開。
その傍らで、漢方、プラセンタ、カウンセリングを中心とした女性外来を行なっている。



所属学会

- 日本内科学会
- 日本東洋医学学会
- 日本抗加齢医学学会

南相馬市小高区は福島第一原発から10キロ圏内の場所。
震災後は避難区域となり全ての人が街を去りました。
現在は避難解除となりましたが、まだまだ帰還者は少なく復興に向けてがんばっている地域です。
そんな地域にプラセンタ療法を積極的に取り入れた『女性外来』を開設。
未病や更年期の女性が多く来院し、プラセンタ療法を取り入れて心身共に元気を取り戻していく方が増えています。
今回はプラセンタ療法を続けられている受診者にプラセンタ療法を始めてからの心身の変化に対するアンケートをお願いしました。
その結果と共にいくつか症例をご報告したいと思います。

病気も美容もプラセンタ

医) 鳳栄会 清水スキンクリニック・理事長
鄭 栄鳳 (チョン ヨンボン)

座長：山本 俊昭 山本医院・院長

略歴

1998年 順天堂大学卒業
順天堂大学形成外科教室入局
1998~2003年 順天堂大学勤務
2003年 千葉中央メディカルセンター形成外科部長
2004年 順天堂医院形成外科 医局長
2005年 順天堂静岡病院形成外科 部長
2007年 清水スキンクリニック開院

資格 所属学会

日本プラセンタ医学・会理事
日本形成外科学会・専門医
日本美容外科学会・正会員
日本美容皮膚科学会・会員
PRPF研究会所属



医療現場で目にするUnfavorite Resultとは好ましくない結果を意味しています。

日々の診療の現場で遭遇するこの言葉ですが美容外科領域では術後の形態が気に入らないということの意味します。皮膚科領域でもよく起こるステロイドの外用剤で起こる副作用のこともその範疇の中に入ると思います。また、美容皮膚科領域ではレーザー治療などでシミが逆に濃くなるなど当初の目標とかけ離れた結果になった場合も同様に表現できるでしょう。さらに、形成外科領域において交通事故後の外傷を受傷した際によくあるのが担当医からは傷が治ったからもう治療は終了だといわれることがあります。しかし、患者さんにとって傷は全く満足のいく状態ではないこともこの表現方法でよいと思われまます。

当院ではこういったUnfavorite Resultに対し質感と色調の改善目的に病気や美容医療の垣根を越えてプラセンタを積極的に使用することを勧めています。そして現況に悩む患者様の心にも働きかけ少しでもその方のQuality of lifeを高めていくことで効果を実感してきました。無限の可能性を秘めているプラセンタの症例をいくつか紹介させていただきます。

プラセンタのチカラ ～耳鼻咽喉科治療における統合医療の実践と展望～

きたにし耳鼻咽喉科・院長
北西 剛 (キタニシ ツヨシ)

座長：山本 俊昭 山本医院・院長

略歴

1992年 滋賀医科大学医学部卒業 同大学耳鼻咽喉学教室入局
2001年 彦根市立病院耳鼻咽喉科 医長
2005年 きたにし耳鼻咽喉科 開業
2014年 医学博士号 取得
2024年 守口市医師会 副会長

役職

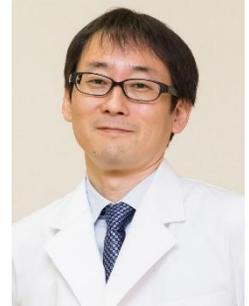
日本アーユルヴェーダ学会 理事長、日本統合医療学会 理事・認定施設、
日本プランセンタ医学会 理事・認定医、日本東方医学会 理事、
日本メディカルホメオパシー学会 理事・認定医ほか。

専門医

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医、日本気管食道科学会専門医

主な著書

『図解 自力で治す！慢性副鼻腔炎 アレルギー性鼻炎』（河出書房新社）
『慢性副鼻腔炎を自分で治す』（マキノ出版）ほか。



耳鼻咽喉科疾患の症状は、五感に関わるため日常生活への支障・苦痛が強い、検査では異常がわかりにくいといった特徴を持っている。このため、治療対処法がなく、複数の医院・病院を受診するケースが後を絶たない。2005年開業以降も、10数件の耳鼻科医院・病院を受診された患者を経験したことなども契機となり、各疾患の診療ガイドラインに加え、補完・伝統医療を含む統合医療を模索し、実践している。

その中で、各種症状に幅広い臨床効果を認め、目立った副作用を示さないプラセンタ療法に出会い、治療選択肢の一つとなっている。前身である日本胎盤臨床研究会 2007年大会参加以降からプラセンタ治療を取り入れ、その後は本医学会において、特に耳鼻咽喉科領域の症状に対する使用経験を報告してきた。本講演においては、当院の診療内容をご紹介するとともに、これまでに経験した耳鼻咽喉科領域のプラセンタ治療例を報告し、臨床家にとっての日常診療における治療の一助となることを期待している。

予定している講演内容

- 当院の診療内容・統合医療の実践
- 耳鼻咽喉科疾患特性・患者様の悩みのリアルな現実
- プラセンタ使用例の統計的集計
- 実際の治療例の紹介 ～長期使用例、著効例、印象的な症例ほか

一般診療所におけるプラセンタ療法のニーズと可能性

医) WHM クリニックプラス池尻大橋・院長
佐藤 順一郎 (サトウ ジュンイチロウ)

座長：山本 俊昭 山本医院・院長

略歴

2010年3月 杏林大学医学部卒業
2010年4月 杏林大学医学部附属病院 初期研修医
2012年4月 川崎市立川崎病院 外科
2014年4月 杏林大学医学部 小児外科 助教
2016年4月 虎の門病院 病理診断科 医員
2017年4月 東京医科歯科大学大学院 包括病理学 社会人大学院生
2021年3月 東京医科歯科大学大学院修了 医学博士
2024年4月 医療法人社団WHM クリニックプラス 入職
2024年10月 医療法人社団WHM クリニックプラス池尻大橋 院長



2017年4月-2024年3月 地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所 老化機構研究チーム システム加齢医学研究 協力研究員

資格

日本臨床内科医会認定 臨床内科認定医
日本抗加齢学会認定 抗加齢医学会専門医
日本臨床漢方医会認定 漢方家庭医
日本病理学会認定 病理専門医

プラセンタ療法は、ヒト胎盤より抽出されたエキスを元に作られた医療用製剤を皮下注射または筋肉注射により投与することによって行う治療法です。製剤としてはメルスモン®（メルスモン製薬）とラエンネック®（日本生物製剤）が知られています。その詳細な作用機序は不明ではあるものの、効果としては保険適応疾患である更年期障害（メルスモン®）、慢性肝炎、肝硬変（ラエンネック®）の他、疲労回復、アレルギー疾患、整形外科疾患、気分障害、美容目的など多岐に渡り、その有効性に関しても数多くの報告がなされています。いくらか解決すべき問題はあものの、その有効性は一般内科診療における選択肢の一つとしても十分に足るものであり、今後プラセンタ療法がより啓蒙、推進されることが望まれ、患者の利益に資すると考えられます。

医療法人社団WHMクリニックプラス池尻大橋（以下、当院）は医療法人社団WHMおよび一般法人社団セカンドにより運営されるクリニックプラスに所属する診療所の一つです。クリニックプラスは主として一般内科およびアレルギー診療を行っており、在籍する常勤医の専門性に応じて皮膚科、小児科診療にも適宜対応しています。当院では、小児科診療に加え、東洋医学的な診療、プラセンタ療法に力点をおいて日々の診療にあたっています。プラセンタ療法に関しては、グループで最も早く開設されたクリニックプラス下北沢の立ち上げ当初から行われており、現在も全8診療所で施行されています。一方で現在、プラセンタ療法開始から4年が経過しようとしています。その詳細に関して、グループ内においてどのような目的、製剤種別、投与方法や投与量を用いて、どのような治療効果が得られているのかなどの分析はなされていませんでした。今回、全診療所で開設以来施行されてきたプラセンタ療法の記録を解析し、傾向を分析することで一般診療所におけるプラセンタ療法のニーズや今後の活用の可能性に関して検討しました。

犬猫の腎機能低下症におけるプラセンタの使用

麻生獣医科医院・院長

上田 裕 (ウエダ ユタカ)

略歴

福岡県出身

1987年 北里大学獣医畜産学部獣医学科卒業

1994年 麻生獣医科医院を開院

2011年 米国テネシー大学公認 動物理学療法士 (CCRP) 取得

CCRP : Certified Canine Rehabilitation Practitioner

2017年 国際中医師「International TCM Doctor」(B級)取得

所属

獣医師、動物理学療法士 (CCRP)、国際中医師 (B級)、麻生獣医科医院院長

日本ペット中医学研究会会長、日本伝統獣医学会会員、日本獣医皮膚科学会会員

カコ動物看護学院講師、国際中獣医学院講師



死因の上位にあるにも関わらず犬猫の慢性腎臓機能不全症は症状の発現の遅さから診断時にはかなり進行している患畜に遭遇することが多く、また治療に対しても患畜の協力も得づらい場合が多く症状の進行を止めることが困難で、治療開始後短い期間で亡くなってしまう場合が多い疾患です。近年当院では西洋医学的治療と中医学的治療を併用することで本症に対してある程度の延命が出来たと考えられる症例をいくつか経験しました。

この治療の中でQOLの維持はとても重要な要因です。特に食欲に関しては最も重要な項目だと思われます。しかし食欲廃絶の患畜の「なぜ食べないのか」の答えを見つけることはとても困難な課題であり、本当の正解を導くのは不可能だと思われます。

その中で薬理的な作用と栄養学的な作用を併せ持ち、投与の簡便性もあり、嗜好性もあるプラセンタ製剤を併用することで食欲が改善しQOLの維持管理の一助になっていると思われる症例を今回報告させていただきます。

協賛企業・団体

北里大学医学部同窓会

北海道ナチュラルバイオグループ 株式会社

株式会社 UTP